

主体的に説明的な文章を読むことができる生徒の育成

— 学習モデルの体験と自分と他者の考えの比較を通して —

前橋市立桂萱中学校 穴原 大輔

I 主題設定の理由

学習指導要領第1章総則の第1「教育課程編成の一般方針」において、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」と記されている。また、国語科の目標は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」と示されており、文章を読み自分の考えを形成することの重要性が説かれている。

群馬県教育委員会「平成29年度学校教育の指針」には、国語の指導の重点として「教材文や資料の中の言葉、叙述、図表などを根拠に、自分の立場や意見を明確にさせた上で、個や集団の考えを広げ深める交流を行いましょう。」と示されている。

また、前橋市教育委員会「各教科等指導の努力点」においては国語科について、「互いの考えを言葉で伝え合う授業の充実」を努力点として挙げている。児童生徒が根拠を明確にして自分の考えをもてるようにしながら、自分の考えを表現し、児童生徒同士が考えを伝え合うことができるような工夫が必要とされている。

本校2学年の生徒は、前向きな生徒が多く、大変落ち着いた学習態度である。前年度実施したCRT学力検査において、どの項目におい

ても学年平均が全国水準を上回った。しかし、「読むこと」については、その得点率が他の領域に比べて高くなかった。

これまでの「読むこと」の授業を振り返ってみると、文学的な文章に比べ説明的な文章の授業において、生徒の意欲が低い傾向がある。その原因として、教師の発問や指示に反応するだけの学習になりがちであること、文章の内容や主題を身近に感じることがないまま学習していることなどが考えられる。その他にも、筆者の考えや論の展開、表現方法などについて自分の考えをもつことがない受動的な学習になりがちであることが考えられる。

そこで、本研究では、学習目標と学習の進め方をより深く理解させることができる学習モデルを取り入れたり、自分と他者の考えを比較させたりすることで、生徒は、主体的に説明的な文章を読むことができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

学習モデルを体験させて単元の見通しをもたせることと、自分と他者の考えを比較させ目的意識をもたせることが、主体的に説明的文章を読むことができる生徒の育成に有効であることを、実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

以下の1、2を行うことで、主体的に説明的文章を読むことができる生徒を育成することを旨とする。

- 1 単元の導入において、学習モデルを体験させることで、単元全体の見通しをもち、意欲的に読むことができるであろう。
- 2 筆者と自分の考えを比較させたり、自分と友達のことを比較させたりすることで、目的意識をもち、意欲的に読むことができるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 主体的に説明的な文章を読む生徒

本研究では、学習の見通しをもち、最後まで意欲的に課題を追究しながら文章を読もうとする生徒、課題を追究するために目的意識をもって意欲的に文章を読もうとする生徒が、主体的に説明的な文章を読む生徒であると考えた。

(2) 学習モデルの体験

「学習モデル」とは、単元で取り組む言語活動を簡単、手軽で、分かりやすくしたモデルであり、単元の導入で体験させる。

単元の導入で体験させることで、生徒は、単元で取り組む言語活動や学習の進め方、学習目標が分かり、単元の学習に見通しをもつことができ、最後まで意欲的に文章を読むことができるようになると思った。

(3) 自分と他者の考えの比較

説明的な文章の学習では、要点を読み取るものの他、筆者の考えや論の展開や表現の仕方に対して自分の考えをもつことも、学習目標の一つとなる。そこで、論の展開や主張、表現の仕方などについて、筆者と自分の考えを比べたり、自分と友達のことを比べたりする工夫をすることで、生徒は目的意識をもち、意欲的に文章を読むことができると考えた。そのために、次の二つの手立てを考えた。

① 学習課題の設定

(筆者と自分の考えの比較)

筆者の考えと根拠をつかむために文章を

読むことができるようにする。

例えば、「賛成する・しない」「納得できる・できない」「共感できる・できない」等の視点から、筆者の主張や考えと自分の考えを比べられるような課題を設定する。

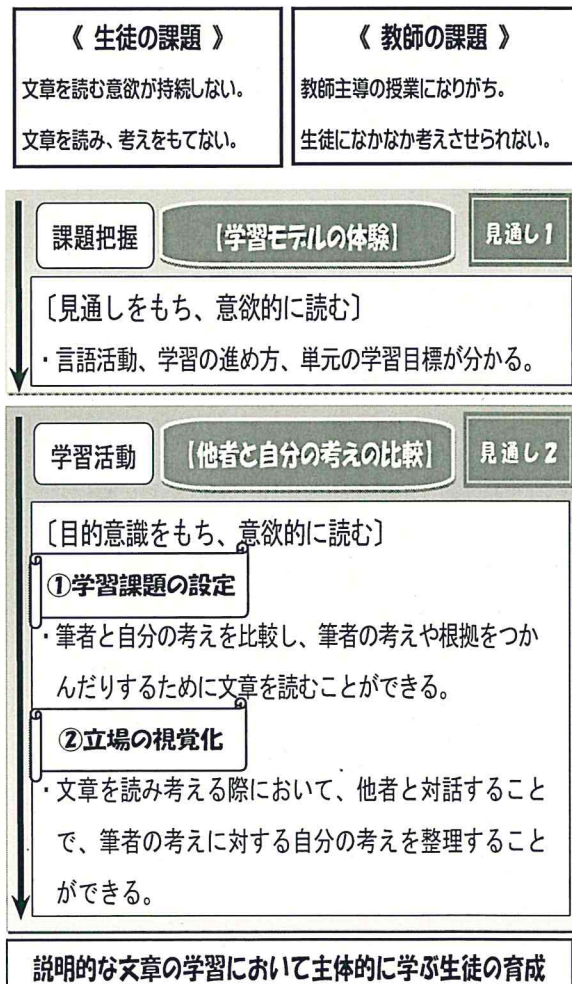
② 立場の視覚化

(自分と友達の考えの比較)

文章を読み考える際において、他者と対話することで、筆者の考えに対する自分の考えを整理することができるようにする。

例えば、筆者の考えに対する自分の立場をネームプレート（マグネット付きの名札）で視覚化する場面を設ける。また、立場ごとの意見を板書に整理して示すなどし、自分と友達の考えを比較しやすいようにする。

2 研究構想図



V 実践の概要とまとめ

中学校第2学年において、「君は『最後の晩餐』を知っているか」を教材文とする授業実践を行った。「評論を読み、筆者の考えに対する自分の考えをまとめる」ことを言語活動として設定した。

実践の経過と見通しは表1のとおりである。

表1 実践の経過と手立て

	主な学習活動【見通し】	時間
課題把握	【見通し1 学習モデルの体験】 ・「漫画のロコミ」を読んで「評論」の特徴を捉える。 ・学習目標や進め方を理解し、単元の見通しをもつ。 ・「最後の晩餐」の絵画を見て印象を伝え合う。	1
学習活動I	【見通し2 他者と自分の考えの比較】 【①学習課題の設定】 ・教材文を読み、筆者の考えを読み取る。 【②立場の視覚化】 ・筆者の評価に対して、共感できるか考える。(1回目)	1
学習活動II	・筆者が「かついい。」と評価する根拠を読み取る。 ・筆者の評価に共感できるか、自分の考えを練る。 【②立場の視覚化】 ・筆者の評価に対して、共感できるか考える。(2回目)	1
まとめ	・筆者の評価に対する自分の考えを文章にまとめる。 【②立場の視覚化】 ・書いた文章を読み合い感想を交流する。 ・単元全体の学習を振り返る。	1

見通し1【学習モデルの体験】

(1) 実践の概要

本学習では、「筆者の見方・考え方を読み取る」「筆者が挙げている根拠を読み取る」「筆者の評論について、自分の考えをもつ」の三つを単元の主な学習目標とした。学習目標と学習の進め方をより深く理解させるために、まず単元の導入で学習モデルを体験させた。

今回の実践で、生徒は初めて「評論」を読んだ。「評論」の特徴をつかませ、なおかつ単元で設定する言語活動を体験させるために、生徒に身近な漫画のロコミ記事(Web ページに掲載されているもの)を読む活動を取り入れた。「ロコミ」とは、「うわさ・評判が人の

口から口へ個別に伝えられるコミュニケーション」のことであり、評論の一種である。漫画のロコミには、「書き手の評価」、「書き手の評価を支える根拠とその観点」が簡潔に示されている。そのため、「ロコミを読み、その評価に共感できるか考えさせる」ことで、「評論」の特徴が分かり、単元全体の学習活動を体験でき、見通しがもてるようになると考えた(図1)。

ロコミを読み、評価に共感できるか考える

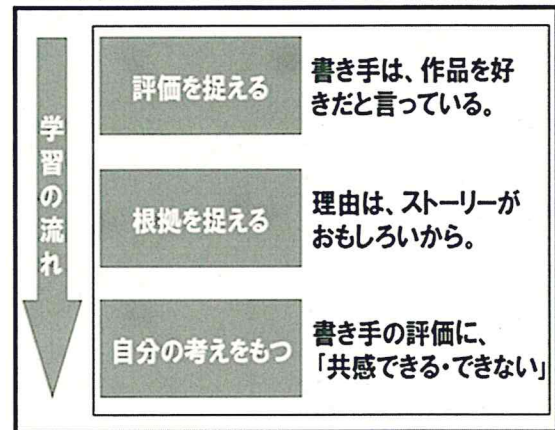


図1「ロコミを読む」(学習モデルの体験)

(2) 結果と考察

生徒は、「ロコミを読み、評価に共感できるか考える」という学習モデルを体験し、「書き手の漫画に対する評価が述べられていること」、「書き手の評価には根拠があること」という特徴に気付くことができた。これらの特徴は、「評論」にも通じているため、生徒は「ロコミ」を読んだことで、要点として着目すべき言葉がどんなものなのかを理解することができた(図2)。

どの世代の方でも夢中になれる作品です！ まずとにかく感動できるストーリーがたくさんあります。涙なしでは読めません。それなのにギャグも抜群に面白く、シリアスになりすぎる事ありません。巻数も多いですが物語自体が面白いので苦になることもなく本当に楽しんで読めると思います！ また、読み進めていくと前の物語との関連が分かったり、隠れキャラがいったりと本編以外でもたくさん楽しむことができます。

今まで読んだ作品の中で一番好きな作品です。ぜひ読んでみて下さい！ (17才・女・高校生)

買ったことをオススメしている
夢中になれる

個人的な感想
肯定的(好意的)→プラス

事実 → 根拠 = 客観的な事実

図2 生徒のワークシートより

(ロコミ出典 web ページ「kuchiran.jp」)

その上で、生徒に「ロコミの書き手の評価に共感できるか」と問いかけたところ、次のような反応があった(表2)。

表2 ロコミに対する生徒の反応

- ・共感できる。なぜなら、私もストーリーについて感動できて、この漫画が好きだから。
- ・私は話が長くなってきていて飽きてきたから、あまり共感できない。

生徒は、「漫画のロコミを読む」活動を通して、「筆者の見方・考え方を読み取る」、「筆者の挙げている根拠を読み取る」、「筆者の評論について自分の考えをもつ」という三つの学習目標をつかむことができた。なおかつ、筆者と自分の考えを比べながら自分の考えを形成するという学習活動を体験したことで、単元の学習活動への見通しをもつことができた。

その後、学習活動を進めていくうちに、「筆者の主観的評価は…」、「それはここの客観的事実が根拠となっていて…」などの、生徒は学習モデルで学んだ言葉を使いながら、読み取りを進めていった。

実践終了後に実施したアンケートにおいて、「授業に意欲的に取り組めた。」と答えた生徒が全体の95%を超えていた。その理由として、「導入の活動が単元の学習に役立つ活動だった」などの学習モデルに関わる記述が多く見られた(表3)。

表3 生徒の感想

- ・今まで評論の特徴が分かっていなかったもので、この授業でその特徴をつかむことができた。
- ・筆者の考えが「主観的」で根拠となる事実が「客観的」だという違いがよく分かったので良かった。
- ・人それぞれの視点での感想があることが分かった。
- ・大勢の人が知っている漫画についてのロ

コミで、自分の意見と比較しながら、学習を進めることができた。

- ・身近な漫画についての評論だったので分かりやすく楽しかった。

以上のことから、単元の導入において、学習モデルを体験させたことは、生徒に見通しをもたせ、意欲的に説明的な文章を読むようにするために、有効であったと言える。

2 見通し2【自分と他者の考えの比較】

(1) 実践の概要

① 学習課題の設定

(筆者と自分の考えの比較)

新学習指導要領「国語第2学年の目標(2)」には、「論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。」とある。

今回扱った「評論」では、「筆者の『かっこいい。』に共感できるか考えよう。」という学習課題を設定した。筆者の見方や考え方に対して、「共感できるかどうか。」と問うことで、生徒にとって「自分はどうか。」と考えるきっかけになると考えたからである。

また、「君は『最後の晚餐』を知っているか」という評論では、筆者が「最後の晚餐」を「かっこいい。」と、読み手の印象に残るような表現で評価している。その評価について、生徒が真剣に筆者と自分の考えを比べながら文章を読めるようにした。

② 立場の視覚化

(自分と友達の考えの比較)

今回の実践では、対話を通して自分と友達の考えを比べながら自分の考えを形成することができるようにするために、学習活動ごとに、生徒に自分の立場を表明させ、それを視覚化した。生徒それぞれの立場が表明されれば、同じ立場の生徒と対話をして根拠を確か

めたり、違う立場の生徒と対話して自分の考えを吟味したりすることができるためである。

①、②の工夫により、生徒は自分と他者の考えを比較しながら読むことができるようになる考えた（図3）。



図3 本単元における自分と他者の考えの比較の工夫

(2) 結果と考察

① 学習課題の設定

(筆者と自分の考えの比較)

課題把握の段階では、教材文を読む前に、「最後の晚餐」の絵を見た印象を生徒に発表させた。この段階では、「暗い」、「緊張感がある」、「うるさい感じ」などの見た目から受ける印象を表す言葉が出てきた。

教材文を一読すると、生徒は、「『カッコいい。』と筆者が評価している。」ことを捉えることができた。生徒は自分たちの印象との違いが大きかったので、「この絵のどこが『カッコいい。』のだろう。」という疑問を抱いた。

そのため、「『カッコいい。』という筆者の考えに共感できるか。」という問いかけには、「共感できない。」と答えた生徒がほとんどであった。その理由として、「カッコいい部分が見当たらないから。」や「暗い印象が強いから。」という、第一印象からの理由が多かった。生徒は「筆者が『カッコいい。』と評価する根拠は何か。」と、目的意識をもち、筆者が評価する根拠を探しながら、文章を読み進めることができた。

次に、生徒は「どうして筆者が『カッコいい。』と評価しているのか」を捉えた上で自分の考えと比べながら教材文を読み進めていった。生徒はすぐに、評価の根拠「レオナルドが究めた絵画の科学と、そのあらゆる可能性を目のあたりにできること」を読み取ることができた。

さらに、学習を進めていくにつれて、生徒の絵に対する見方も変わっていった。学級全体で交流をした後に、「『カッコいい。』という筆者の評価に共感できるか。」と再度問いただしたところ、「共感できる。」と答えた生徒が半数に上った。「共感できる。」と答える人数が増えたことは一概に考えが深まったことを示すとは言えない。しかし、今回の実践においては、文章を読み返すことによって、生徒一人一人が筆者の見方や考え方を受け止めた結果であり、生徒が目的意識をもって文章を読み深めることができたためと考える(図4)。



図4 交流を経て再読し考えを練る生徒

実践終了後のアンケートでは、90%以上の生徒が「学習課題について真剣に考えることができた。」と回答している（表4）。

表4 学習課題への感想

- ・筆者は自分と違う意見だったので、どこをどう見たらそうなるのかを考えられた。
 - ・読んだばかりのときは、「カッコいい。」の意味が分からなかったから、読みながらととてもよく考えられたと思う。
- _____線部は筆者と自分の考えを比較している記述

以上のことから、今回の実践において、学習課題を工夫して設定したことで、生徒は、筆者と自分の見方や考え方を比べようとしたため、目的意識をもって意欲的に文章を読むことできたと考える。

② 立場の視覚化

（自分と友達の考えの比較）

「筆者の『カッコいい。』に共感できるか考えよう。」という学習課題について考えさせる。その際、筆者の見方や考え方に対して、「共感できるかどうか。」と問いかけ、生徒に「『カッコいい。』という筆者の評価に共感できるか。」という課題について考えさせることは、筆者と自分の見方や考え方を比べながら読むことにつながる。また、自分の考えを形成する段階で、交流する場を設定することで、「他の人はどう考えたのだろう。」と、他者の見方や考え方にも触れ自分の見方や考え方を広げることにもなる。意図をもって交流することは、生徒にとって、自分の考えを形成するのに有効になる。

そこで今回は、学習活動Ⅰ、学習活動Ⅱ、まとめの過程において、「筆者の評価に共感できるか。」を生徒に問いかけ、挙手させたり、ネームプレートを黒板に貼らせたりして、生徒の立場を視覚化した。

まず、課題把握の場面（図5）において、生徒に「最後の晩餐」を見た印象を出し合

せた。描かれた人物の様子、使われている色等の視覚からの情報が、生徒の印象に大きく影響していることが伺える。

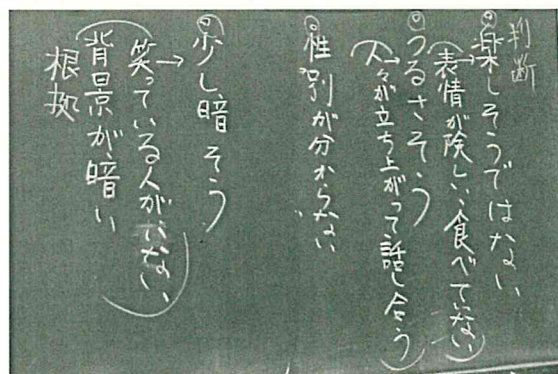


図5 課題把握の場面での板書

学習活動Ⅰでは、教科書を一読した後に、「『カッコいい。』という筆者の評価に共感できるか。」を生徒に問いかけた。この時点では生徒のほとんどが、「共感できない。」と答えていた。そして、それぞれの立場から理由を発表させ、全体で共有した（表5）。しかし、多くの生徒が絵の印象に影響された意見を述べており、筆者の評価の根拠を正確に取り取った上で、答えた生徒は一部であった。

表5 学習活動Ⅰでの生徒の意見

- S1: 私は筆者の「カッコいい」に共感できます。なぜなら、筆者が言うように解剖学などの科学的な技術が駆使されているのがすごいと思うからです。
- S2: 私は筆者にあまり共感できません。全体的に暗い印象が強くて、「カッコいい」とは思えないからです。
- S3: 私は筆者に全然共感できません。確かに絵画の科学はすごいとは思いますが、「カッコよさ」は感じないからです。
- _____線部は文章から根拠を見付けている発言

学習活動Ⅱでも、「筆者の『カッコいい。』に共感できるか考えよう。」という課題意識をもちながら、筆者が挙げる根拠を読み取った。それは、「レオナルドが究めた絵画の科学と、そのあらゆる可能性を目のあたりにできること」である。その上で、自分の考えを見直し

て、改めて立場を表明させた。その際、それぞれの立場を視覚化できるように、ネームプレートを黒板に貼らせた。さらに、自分と友達を比べながら考えられるように、同じ立場同士で交流する時間をとった。生徒は黒板に貼られたネームプレートを参考に、席から離れ、同じ立場の人と対話をして意見を交流した(図6)。



図6 同じ立場で集まって交流する様子

すると、生徒たちは、同じ立場でも、着目した事例が異なったり、より詳しく事例を見つめ直したりしていた(表6)。

表6 同じ立場同士で交流する生徒の会話

- S4: 確かに、筆者が言うように、この絵の構図は意味があるように思う。
- S5: 中心に描かれたキリストに自然と目が向くし、弟子たちの心の動きが見えるように感じるね。
- S6: この文章を読んで、絵を見てみると、筆者に共感できることが多いね。
- S5: レオナルドが絵画の科学を駆使して表現しようとしたものが見えてくるようで、なんだかすごいなあ。

線部は文章を読んで考えている発言

同じ立場同士で対話した後、全体で、立場と理由を伝え合う交流場面を設定した。黒板に貼ったネームプレートの下に、それぞれの立場から出された意見を、整理しながら板書した(図7)。

誰がどんな立場でどのような意見を言って

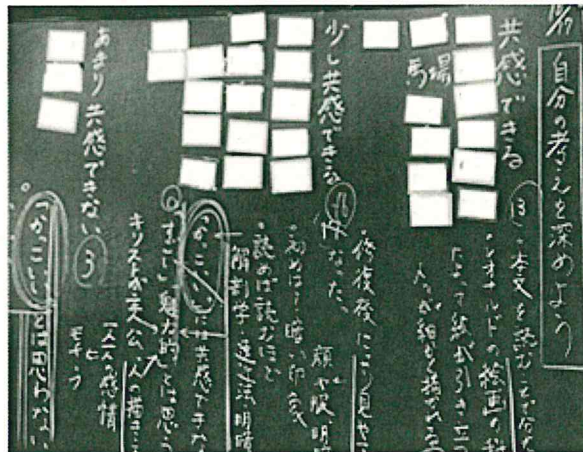


図7 ネームプレートを使った視覚化

いるのかを一目で分かるようにするために、全体での交流場面では、机の隊形もコの字型に変えた。すると、「共感できる」「共感できない」それぞれの立場の意見を踏まえ、考えを発言している様子が見られた(表7)。

表7 全体での交流の様子(一部)

- S7: 僕はみんなの話聞くまでは、「共感できない」派だったけど、話を聞いて、「共感できる」派の言うことに納得できた。もう一度文章を読んでみると筆者に共感できるようになった。
- S8: みんなの話聞いて、文章を見返してみると、レオナルドのすごさは分かるけど、やっぱり「かっこいい」とは違う気がしました。
- S9: いろいろと考えてみると、本当に「かっこいい」のは、絵というよりも、絵を描いたレオナルドだって、筆者も実は思っているんじゃないかな。

線部は立場を踏まえて考えている発言

まとめの場面では、この評論を読んだ感想をワークシートに書いた後に、交流させた。交流では、お互いの見方や考え方を比べ合いながら、感想を伝え合っていた。

ワークシートの記述からは、自分の考えを形成できた様子が伺えた(次項図8)。また、自分が真剣に考えられたことの達成感を味わった生徒も多く見られた。

イ		リ	一	ア	キ	科		ハ		ハ	
ト	私	マ	目	よ	る	学	な	な	私		
思	は	す	見	り	こ	と	ぜ	ず	は		
い			た	カ	い	そ	ば	く			
ま	ニ		だ	ッ	ウ	の	ら	共	の		
し	の		け	コ	ニ	あ	、	感	作		
た	作		で	コ	と	ら	二	ア	品		
	品		絵	よ	や	ゆ	の	を	を		
	と		の	く	藍	る	絵	ま	読		
	し		ス	見	近	可	画	ま	ん		
	オ		ワ	え	法	能	は	し	で		
	フ		ー	た		性	し	た			
	ル		ル	か	明	を	オ		カ		
	ド		の	ら	暗	目	オ		ッ		
	は		ス	で	法	の	イ		コ		
	、		エ	す	を	考	ル		イ		
	カ		エ	の	取	え	ド		イ		
	ッ		ガ	ほ	り	り	が		ト		
	コ		分	の	入	レ	究		思		
	イ		か	で	れ	ブ	め				

図8 まとめのワークシート

授業後の感想からも、生徒はこれまで以上に意欲的に交流を行い、それによって自分と友達の考えを比べながら文章を読むことができたと感じた(表8)。自分と友達の考えを比較させることで、生徒は目的意識をもち、意欲的に文章を読むようになったと考える。

表8 授業の感想

- ・最初は、まったく筆者に共感できなかつたけれど、読み深めていくうちに「魅力的」だとは思うようになった。
 - ・意見が同じ人同士で集まり、フリートークをすることで、なるほどなど思う部分がたくさんあった。その後の全員での話合いの時も、自分が気付けなかったことがたくさんあって、楽しかったので、一番印象に残った。
 - ・二年生になって、この「最後の晚餐」の文章は一番読みこんだ気がしました。
 - ・読み深めていくことで、自分の意見をしっかりもち、文章への理解を深めることができた。また、意見を交流することで様々な考えを知ることができた。
- _____線部は意欲的な様子がみられる記述

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

- 単元の導入で学習モデルを体験させて、生徒に学習目標と学習の進め方をつかませたことで、生徒は見通しをもち、最後まで意欲的に学ぶことができた。
- 筆者と自分の考え、自分と友達の考えを比較させるための工夫をしたことで、生徒は目的意識をもって文章を読み、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。

2 今後の課題

- 文章の形式や学習のねらい及び生徒の実態に応じて、学習モデルを考えたり、学習課題を工夫して設定したりすることが必要である。

〈参考文献〉

- ・文部科学省『中学校学習指導要領 国語編』(2008)
- ・群馬県教育委員会『平成29年度学校教育の指針』(2017)
- ・前橋市教育委員会『前橋市 各教科等指導の努力点』(2017)
- ・文部科学省『中学校学習指導要領 国語編』(2017)
- ・吉田裕久・水戸部修治編著『平成29年版 小学校新学習指導要領ポイント総整理国語』東洋館出版社(2017)